

鳥取県 城山神社獅子舞保存会



【出演芸能名】志加奴・城山神社獅子舞

志加奴・城山神社獅子舞は、鳥取市気高町宿の志加奴神社と鳥取市鹿野町鹿野の城山神社の両社に奉納される2人立ちの獅子舞です。起源は、亀井茲矩が鹿野城主だった江戸初期までさかのぼるとされています。江戸時代の半ばには一時中断していましたが、文化10年(1813)に鳥取藩に許可を得て再興して以来、連綿と続けられてきました。

2年に1度の城山神社幸行行列で奉納され、城山神社では4月15日に近い日曜日に、志加奴神社では4月22日に近い日曜日に舞われています。獅子頭は神楽獅子のものですが、舞は因幡・但馬地方に特有の「麒麟獅子舞」に似ています。

岡山県 宮内踊り保存会



【出演芸能名】宮内踊

宮内踊は、岡山市吉備津の宮内に伝わる盆踊りで、江戸時代後期宝暦年間(1751~1763)の頃、吉備津神社の門前町として栄えた宮内へ芝居興行に訪れた、花形歌舞伎役者「三舁大五郎」が振り付け、この地の芸者衆に踊らせたのが始まりといわれています。衣装は浴衣で、踊りは歌舞伎の「六法」をくずした構成となっており、太鼓と音頭で単純な動作をゆるやかな速度で踊る点に大きな特色があります。

毎年7月31日に行われる、吉備津神社の神事である「夏越祭」で「宮内踊」を奉納しています。宮内踊り保存会では、この祭りの前に町内会へ踊りを指導するほか、地域の行事にも積極的に参加し、後継者育成、保存継承に努めています。

徳島県 祇園囃子保存会・立江小学校の祇園囃子伝承教室



【出演芸能名】祇園囃子

祇園囃子は立江八幡神社に伝わる囃子の一曲で、秋の大祭等で毎年演奏されています。約400年前に、立江城主小笠原家が京都より立江の町民に取得させたといわれています。

立江の町は、立江西崎(9地区)・椋の崎(3地区)の12地区に分かれ、その年の祭り当番の地区が練習し奉納する持ち廻りとなっていました。人の減少により昭和41年に祇園囃子保存会を結成し、平成17年には、ふるさとの貴重な伝統芸能を後世に残すため立江公民館・立江小学校主催による「祇園囃子伝承教室」を立ち上げ、今日まで小学生達と共に祇園囃子の伝承活動を行っています。

愛媛県 上島町雨乞い踊り保存会



【出演芸能名】雨乞い踊り

雨乞い踊りは、雨を司る“竜王”に雨乞いを祈って「サー参ろう」と、竜王堂を始めとして主な神社、寺院で祈りを込めて踊り始めたもので、慢性的な水不足に悩まされてきた弓削島では、室町時代から継承され、終戦後の頃まで踊られてきました。

昭和46年に青年団を中心に保存会が発足し、その後は、保存会員に加え、少年会員を募集するなど若年層への伝承を行ってきました。現在では、成人会員だった人が指導者となり、小中学生を会員として伝承活動を行っています。6月から毎月第1、第3水曜日の午後6時から1時間、小学校の体育館で練習を行っています。

山口県 三作神楽保存会



【出演芸能名】三作神楽

三作神楽は、山口県周南市北西部の和田三作地区に古くから伝承され、7年目ごとの卯年と酉年に式年祭で地元河内社に奉納されてきました。

神殿を設け、神迎えをして23の神楽舞を奉納するこの神楽は、神祭りの一つの古風な形をとどめ、中世の華やかな芸能を取り入れて祭りの興奮を高めています。

三作神楽保存会では、昭和53年から子ども神楽教室の開催、周南市立和田小・中学校での指導を行い、和田中学校閉校後は、富田中学校で三作神楽クラブの設立と活動を支援するなど、三作地区に限らず広く活動を展開しています。

鳥根県 唐川自治会 唐川神楽



【出演芸能名】唐川神楽

唐川神楽は、江戸時代後期から200年近く受け継がれている歴史ある神楽で、古い史料や独自の所作・演出が今なお多く残されています。神楽が伝えられた当時に21段あったとされる演目のうち、現在でも20段を継承しており、他地域との交流が少ない山村という地理的条件により、他では見られない大蛇の形態など独特の芸態が育まれ、現在まで変わらず伝えられている貴重な民俗芸能です。

韓龍神社例大祭の前夜祭に、お茶の里唐川館で2年に1度奉納神楽を行っており、現在は、地元の唐川自治会で保存・継承に取り組んでいます。

広島県 小原大元神楽保存会



【出演芸能名】小原大元神楽

小原大元神楽は、広島県山県郡北広島町小原地区にある大歳神社で、7年ごとの式年祭に行われる大元神楽を中心とする歴史ある神楽です。

式年祭では、大元綱と呼ばれる藁で作った蛇を引き回し、激しく揺り動かすなどの特殊な神楽を奉納します。

保存団体である小原大元神楽保存会は地元住民で構成され、神楽団員は約10名で活動しています。時代とともに少人数になりましたが、伝統ある大元神楽の継承のため、鍛錬を重ねており、次回、令和7年10月の式年祭に向けて、地区を挙げて準備を進めています。

香川県 綾南の親子獅子舞保存会



【出演芸能名】綾南の親子獅子舞

綾南の親子獅子舞は、香川県綾歌郡綾川町畑田及び千足に伝えられてきた獅子舞です。香川県内では、二頭立ての夫婦獅子は各地に見られるものの、親子獅子とする地区は非常に珍しく、獅子の奉納芸の変遷を示す貴重な芸能です。

綾南の親子獅子舞保存会は、矢坪獅子組、中筋獅子組から成り、地元の畑田八幡宮、春日八幡宮への秋祭りへの奉納や、国内の各種芸能大会への出演のみならず、海外での公演を行う等、活発に活動しています。保存会員の多くは、子どものころから獅子舞を習い始め、成長するにつれ親獅子を遣います。

高知県 大月町郷土芸能伝承保存会

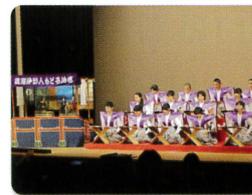


【出演芸能名】竜ヶ迫唐獅子おどり

高知県幡多郡大月町竜ヶ迫に伝わる竜ヶ迫唐獅子おどりは、今から130年ほど前(明治25年)、愛媛県北宇和郡から現在の竜ヶ迫地区へ来た小間物商人によって伝承されました。当時は鍋蓋を獅子頭に代用して練習し、夏祭りにやっと届いた獅子頭で竜ヶ迫天満宮に奉納したと伝えられています。以来、地区の青年たちにより受け継がれ、大漁満作を祈願し地区のお祭りなどで披露されてきました。

地区の若者が減少し伝承が困難となったことから、平成6年に町内の有志が保存会を結成し、町のイベント行事や祝いの席で披露するなど、伝承保存に努めています。

山口県 徳地人形浄瑠璃保存会・山口市立中央小学校児童



【出演芸能名】徳地人形浄瑠璃

徳地人形浄瑠璃は、山口市徳地地域に幕末から明治初期の頃に大阪の文楽の師匠が数人この地に移住し、浄瑠璃を教えたことをきっかけに、地域の興味を持った若者たちが三味線や浄瑠璃語りを習い、文楽人形浄瑠璃とは異なる徳地独特の人形浄瑠璃として広まりました。

戦後の後継者不足や時代の風潮に押され衰亡の危機もありましたが、地元関係者の熱意により、保存会が結成され、昭和48年頃からは、小学生の演じる人形浄瑠璃として人気が高まりました。山口市立中央小学校6年生の総合学習の時間として50年以上も継承され、学校の成果発表会のほか、地域内外からの招聘に応じて上演しています。